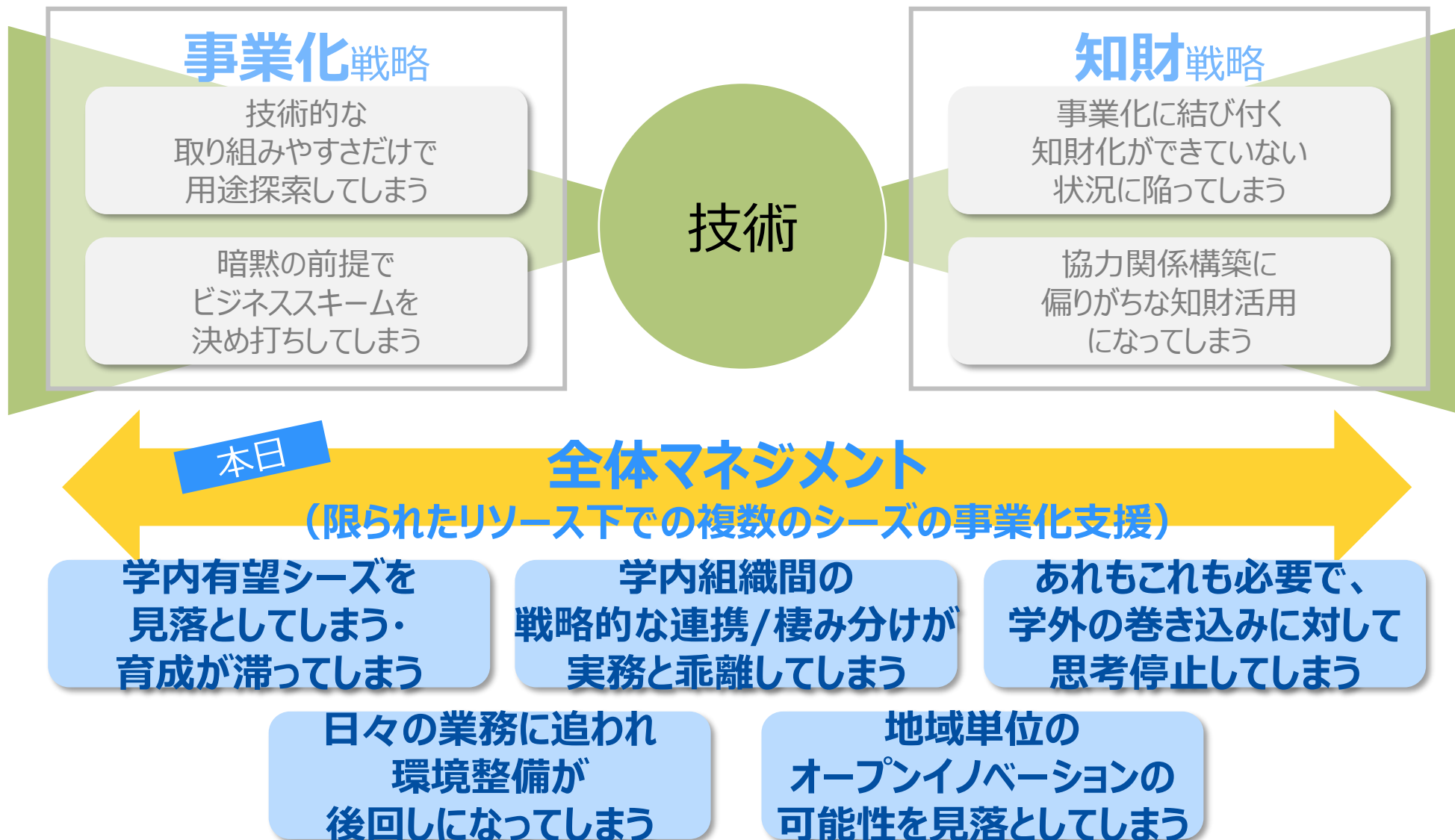


第1~3回の振り返り：技術シーズを活かした事業創出時の落とし穴

第1~3回勉強会では、「事業」「知財」の観点で必要な考え方やTipsについて紹介した。
本日は全体マネジメントに特化し学びを深めたい。



全体マネジメントの落とし穴

「学内シーズ群の発掘・育成支援」、「学内との連携」、「学外の巻き込み」、「環境整備」、「地域単位の大学を中心としたオープンイノベーション」の視点で、陥りがちな課題が存在。

落とし穴

学内有望シーズを見落としてしまう・育成が滞ってしまう

学内組織間の戦略的な連携/棲み分けが実務と乖離してしまう

あれもこれも必要で、学外の巻き込みに対して思考停止してしまう

日々の業務に追われ環境整備が後回しになってしまう

地域単位のオープンイノベーションの可能性を見落としてしまう

陥りがちな課題例

✓ “対象シーズ待ち”の姿勢で“発掘”ができていない
候補を発掘しても、有望シーズの選定の方法が分からない

✓ 有望シーズに対する伴走支援の方法が分からない

✓ 基礎研究と産学連携が別物として扱われてしまうなど、学内の組織間の連携が円滑に進まない

✓ 組織間の機能を統合した結果、実務が停滞

✓ 外部と学内との目線感がすり合わず、連携が進まない

✓ あらゆる人材・機能が不足しており、何をどう獲得すればいいか分からない

✓ 担当者の経験・知見や機能が不足しており、特定の出口枠組みに偏ってしまう（起業支援はできない等）

✓ 事業化支援・人材育成の仕組みはあるが、関心をもってくれる研究室・研究者が広がらない

✓ 地域の周りの大学との連携に伴う手間や懸念が先行してしまい、連携に乗り出せない

✓ 自大学は小規模だから関係ない、と検討から除外してしまう



大学の特徴に応じて、事業化の出口の枠組みとその支援方法、環境整備はさまざま。
講演大学・政府の取組事例を、自大学に適した活用方法を見出すヒントにしていきたい。

